

経営改善計画

2024－2026

令和6年（2024年）3月

公益財団法人吹田市文化振興事業団

I 計画の目的

公益財団法人吹田市文化振興事業団（以下「事業団」という。）は、市民の文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造に寄与することを目的に、吹田市文化会館メイシアター（以下「メイシアター」という。）の効果的、効率的な管理運営を行う中で、多様な事業活動を行ってきました。

メイシアターは、平成 29 年度（2017 年度）以降、改修工事や地震の影響、コロナ禍により全部または一部の施設の使用中止や使用制限が続いてきました。これに伴い、事業団の事業活動も制限され、事業収益が著しく減少するなど、事業団の経営にも大きな影響があらわれています。

今後、安定的、継続的に文化・芸術の振興を図る事業活動を展開するには、これに資する安定的な経営基盤が求められます。新型コロナウイルス感染症の5類移行による制限緩和を機に、より一層メイシアターを活性化し、事業活動を推進していくため、事業団の経営基盤を整備、確立することを目的に、本計画を策定するものです。

期間	施設の使用中止・制限にかかる措置
H29. 4. 1 ～ H30. 3.31	改修工事に伴い休館
H30. 6.18 ～ R1. 6.30	大阪府北部地震の影響により大ホール使用中止
R1. 7. 1 ～ R2. 8.31	改修工事に伴い休館
R2. 9. 1 ～ R5. 5. 7	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止措置

II 計画の期間

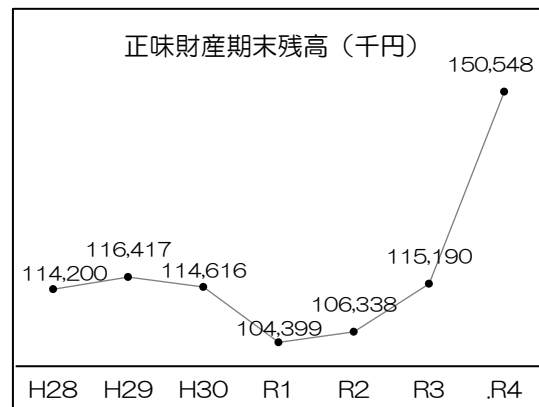
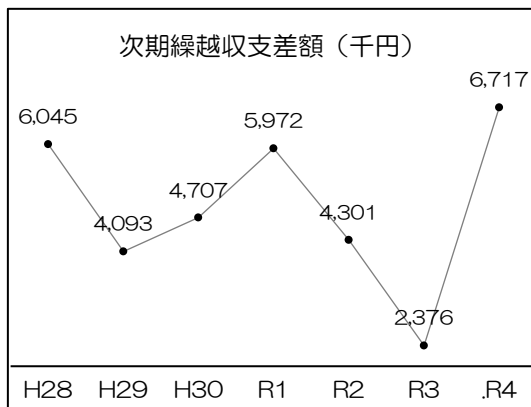
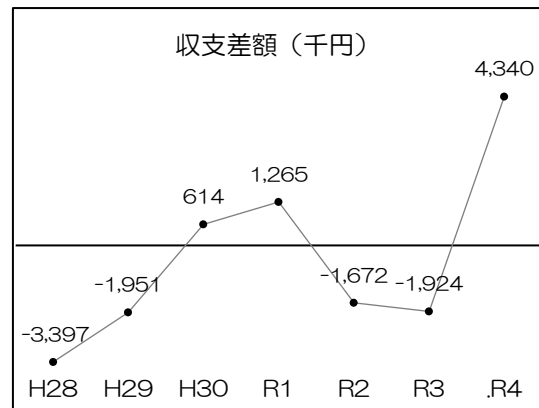
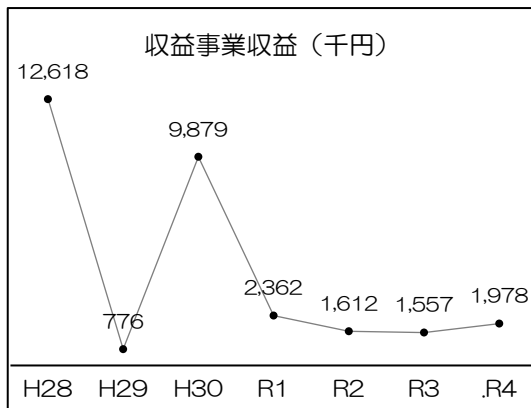
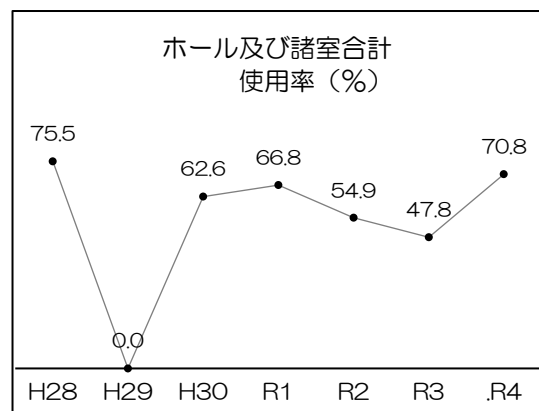
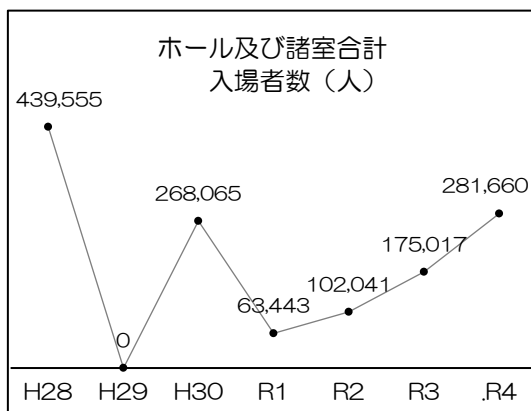
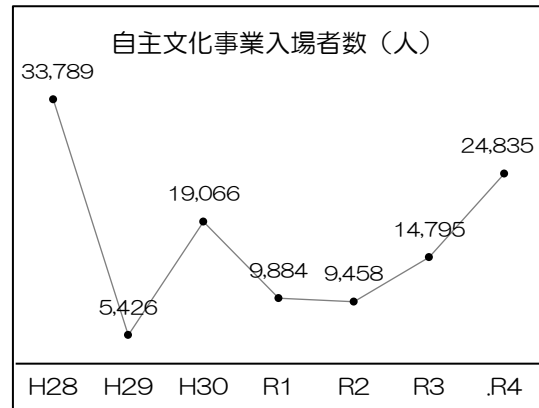
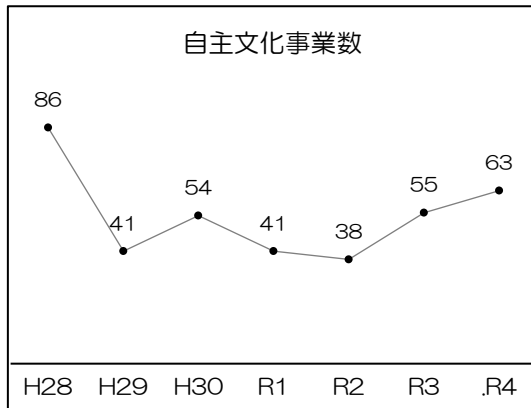
この計画の計画期間は、当期指定管理指定期間中とし、令和6年度（2024 年度）から令和8年度までの3年間とします。

III これまでの状況

事業団の収支状況については、平成 29 年度から令和3年度までの間、メイシアターにおける事業活動が縮小されたことから、とくにレストラン事業収益などの事業収益が著しく減少することとなりました。これに伴い、繰越収支差額（収支差額の累計額）は大きく減少していましたが、令和4年度には回復の兆しがみられるものとなっています。

また、正味財産の状況については、令和3年度から回復がみられ、令和4年度には大きく増加していますが、期末残高は、引き続き、基本財産の額を下回っている状況です。

平成 28 年度から令和 4 年度までの推移



Ⅳ これからの取組み

事業団の経営改善を図り、事業活動の見直しを進め、以下の諸施策に取り組みます。

1 収益事業収益の確保

公益法人として公益目的事業の推進に努め、これに資する自主財源として収益事業収益の確保に取り組みます。

事業団の収益事業は、公益法人の認定において、レストラン事業、自動販売機設置事業及び広告掲載事業としており、今後、各事業の見直しを進めるものです。

(1) レストラン事業

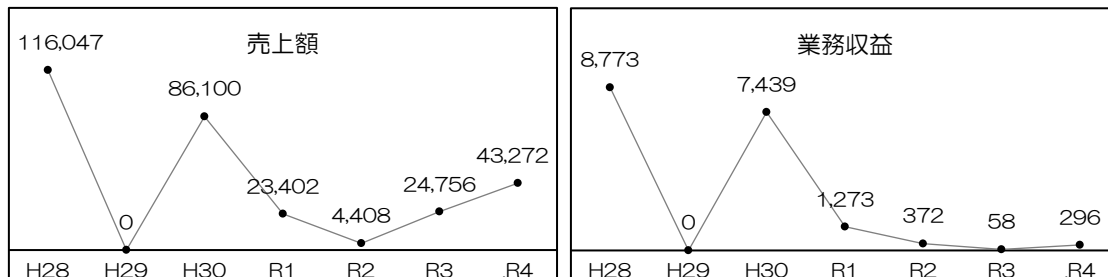
開館以来、メিশアターにおいてレストランの委託事業を行い、売上の一部を収益としてきたもので、事業団の自主財源の確保、収支均衡に大きく影響するものとなっています。

平成29年度以降、長期休館やコロナ禍により営業の制限が続き、このため、売上が著しく減少し、令和3年1月をもって事業者が撤退することとなりました。

事業団の誘致により令和3年4月から新規事業者が「CAFÉ DINING VALORE.」を出店し、新たに事業展開を行っています。

今後は、レストラン業務収益の増を図り、事業者と連携して業績の向上に努めます。

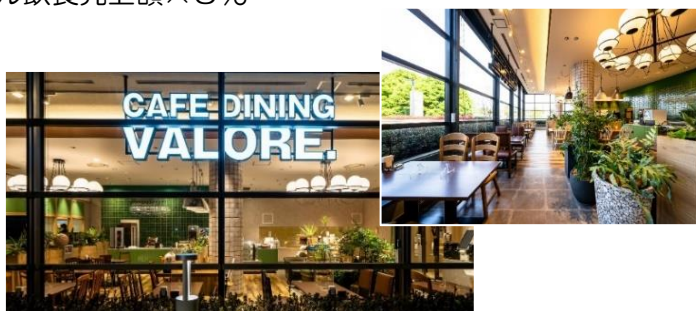
レストランの売上額及び業務収益の推移（千円）



【レストラン業務収益】

レストラン飲食売上額の最低保証額（5,500,000 円）超過分×6%

及びレセプションホール飲食売上額×8%



これからの取組み

- 事業者と連携して事業の改善を図っていくことを目的に、定期的な共同ミーティングを行います。
- 事業団の広報ツール（ホームページ、SNS、紙媒体）の積極的な活用、自主文化事業や友の会事業とのタイアップなどにより、レストランのPRに努めます。
- 飲食売上の向上を図り、レストラン及びレセプションホールのバンケット利用を促進します。

指標 レストラン業務収益

平成 28 年度実績	11,100,036 円	令和 4 年度実績	295,869 円
		令和 8 年度目標	2,000,000 円

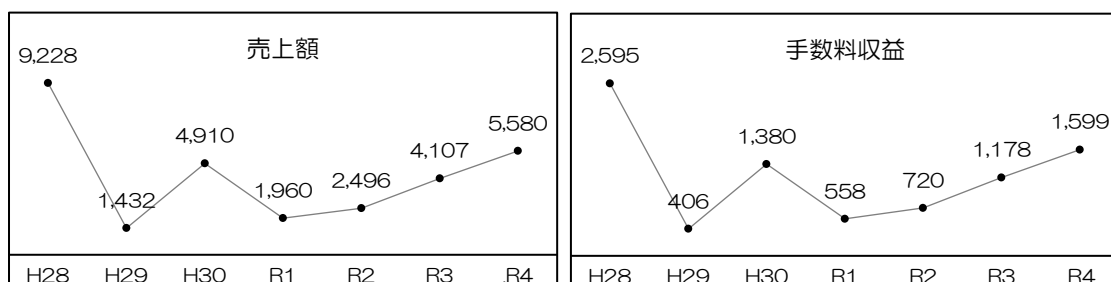
(2) 自動販売機設置事業

メイシアターに6台の飲料自動販売機（災害対応型）を設置し、売上の一部を自主事業に当てています。館内の4台にはメイシアターをイメージしたオリジナルラッピングを施し、また、館外の2台にはWリボンプロジェクト支援機を設置しています。

平成 29 年度以降、長期休館やコロナ禍により利用が大きく減少していますが、徐々に売上が回復してきています。

今後は、手数料収益の増を図り、現行台数の設置を確保しながら、効果的な増設も考えていきます。

自動販売機の売上額及び手数料収益の推移（千円）



【自動販売機設置手数料収益】

販売価格×28%×売上本数



これからの取組み

- 6台の自動販売機の設置を継続し、安定的、継続的に使用料収益を確保します。
- 新たに効果的な設置場所を検討し、増設を図ります。

指標 自動販売機設置手数料収益

平成 28 年度実績 2,594,758 円

令和 4 年度実績 1,598,557 円

令和 8 年度目標 2,250,000 円

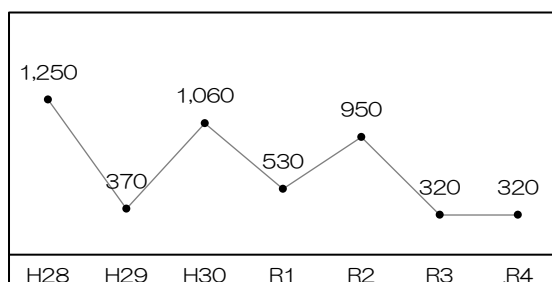
(3) 広告掲載事業

月刊情報紙「メイシアターいんぷおめーしょん」に広告を掲載し、2 者合計 320,000 円の広告料収益を得ています。

平成 29 年度以降、長期休館やコロナ禍による事業規模の縮小に伴い、情報紙の発行部数の減などにより広告掲載が大きく減少しています。

今後は、広告料収益の増を図り、現行の広告掲載を確保しながら、広告掲載の拡大を目指します。

広告料収益の推移（千円）



これからの取組み

- メイシアターいんぷおめーしょんへの広告掲載について、現行の掲載実績の確保と新規掲載の獲得に取り組みます。
- 効果的な広告スペースの増設を検討し、広告掲載の拡大を図ります。

指標 広告料収益

平成 28 年度実績 1,250,000 円

令和 4 年度実績 320,000 円

令和 8 年度目標 750,000 円

2 自主文化事業の見直し

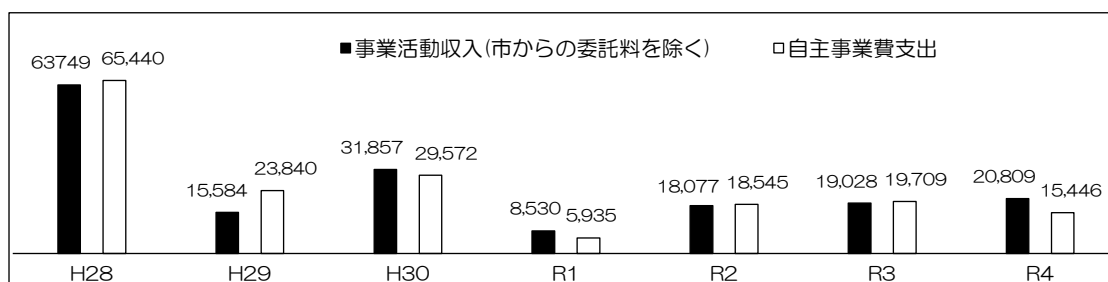
事業団は、市民の文化活動の振興を図り、個性豊かな地域文化の創造に寄与することを目的に、おもにメイシアターを活用して多様な自主文化事業を行ってきました。

平成 29 年度以降、長期休館やコロナ禍によりメイシアターの使用の制限が続き、これに伴い、事業規模が縮小され、事業収益の減少が続いてきました。

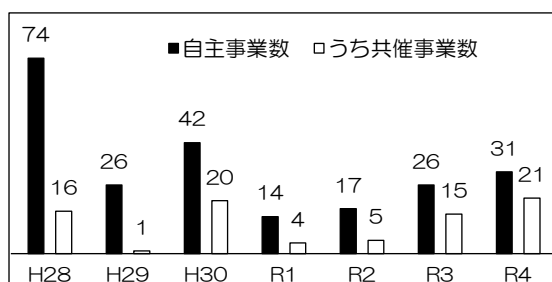
このため、平成 29 年度には、文化事業積立資産 8,000,000 円を取り崩して財源とし、自主事業費に充当しています。平成 30 年度以降は、経費負担がない共催事業の割合を高めるなど、経費を軽減しながら事業の質と量を維持する工夫をしているところです。

令和 7 年度には、メイシアター開館 40 周年を迎えることとなり、様々な記念事業を計画するものとなります。これを機に、引き続き、経費節減の工夫と自主財源の確保に努めながら、プロデュース活動を推進し、文化・芸術の創造、発信、文化の担い手の育成など、多様な事業展開に取り組んでいく考えです。

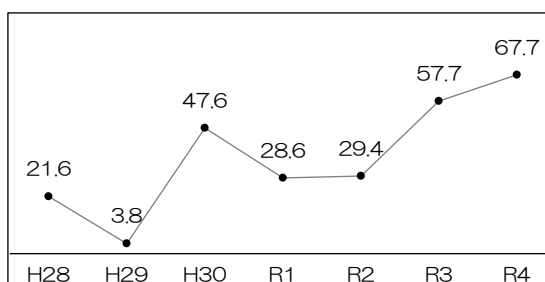
事業活動収入（市からの委託料を除く）と自主事業費支出の推移（千円）



自主文化事業数と共催事業数の推移



自主文化事業のうち共催事業の割合（％）



これからの取り組み

- 事業ごとに収支計画を精査し、できる限りの経費節減、収支均衡に努めます。
- 多様な共催事業を実施し、安定的、効率的に文化・芸術の鑑賞機会を提供します。
- 協賛金や助成金の獲得により財源を確保し、文化・芸術の創造、発信に取り組みます。
- 青少年育成事業応援寄附金を募集し、青少年育成事業を推進します。
- 友の会会費収益の増を図り、レストランとの提携などによるサービスの向上を進め、メイシアターメイト会員の拡大を目指します。

指標 事業活動収支差額

平成 28 年度実績 -1,248,794 円

令和 4 年度実績 1,093,438 円

令和 8 年度目標 5,000,000 円

3 資産の確保

将来に必要な費用の財源となる資産の確保に取り組み、これによる安定的な正味財産の確保を図ります。とくに、文化事業積立資産の新たな積立て及び退職給付引当資産の増しに取り組みます。

(1) 文化事業積立資産

事業団では、記念事業費の支出に備えて繰越収支差額の一部を積み立て、文化事業積立資産としてその財源を確保してきました。

メイシアターの開館 10 周年及び開館 30 周年の各年度には、この一部を取り崩して記念事業費に充当しています。これとは別に、平成 29 年度には、改修工事に伴う 1 年間の休館により自主財源の確保が見込めないとして、この残額のすべてを取り崩し、自主事業費に充当しています。これ以降、文化事業積立資産はありません。

今後は、記念事業その他事業活動に資する安定的な財源の確保を図り、継続的な黒字による繰越収支差額の増に努め、これによる新たな資産の積立てを目指します。



文化事業積立資産の推移

	H5	H7	H14	H27	H29
積立額	20,000,000 円		8,000,000 円		
取崩額		10,000,000 円		10,000,000 円	8,000,000 円
残 額	20,000,000 円	10,000,000 円	18,000,000 円	8,000,000 円	0 円
備 考		開館 10 周年		開館 30 周年	休館 1 年間

これからの取組み

- 文化事業積立資産の新たな積立てを図り、継続的な収益確保と費用節減による恒常的な黒字化に努めます。

指標 文化事業積立資産

平成 28 年度実績 8,000,000 円

令和 4 年度実績 0 円

令和 8 年度目標 5,000,000 円

(2) 退職給付引当資産

これまで、事業団では、賃金の支払の確保等に関する法律施行規則（昭和 51 年労働省令第 26 号）の規定に基づき退職給付引当金の 25%の額を確保するため、事業収益の一部を退職給付引当資産に積み立て、その額を確保してきました。

今後は、退職給付の支払いに資する安定的な財源の確保を図り、事業収益からの積増しを進め、退職給付引当金と退職給付引当資産の均衡を目指します。

これからの取組み

- これまで退職給付引当金の 25%の額としてきた退職給付引当資産について、事業収益からの継続的な積増しに取り組み、退職給付引当金と退職給付引当資産の均衡を目指します。

指標 退職給付引当金に対する退職給付引当資産の割合

平成 28 年度実績 28.8%

令和 4 年度実績 32.5%

令和 8 年度目標 50.0%

4 基本財産運用益の確保

基本財産 200,000,000 円については、これまで、100,000,000 円を 10 年国債、90,000,000 円を 5 年国債、10,000,000 円を貯金にて運用してきました。

平成 27 年 3 月に 5 年国債が償還、令和 5 年 3 月に 10 年国債が償還されましたが、ゼロ金利～マイナス金利政策による超低金利市場が続き、新たな運用ができない状況にありました。

今後は、マイナス金利政策が終了し、金利の上昇が見込まれることから、あらためて安全かつ効率的な基本財産の運用を図り、新たに債券の取得に取り組む計画です。これにより運用益を確保し、法人管理及び事業運営の財源とするものです。

定款に定める公益財団法人移行時（H24 年 4 月 1 日）の基本財産

財産種別	場所・物量等	
投資有価証券	第 248 回 10 年国債	100,000,000 円
	第 88 回 5 年国債	90,000,000 円
定期貯金	定期郵便貯金	10,000,000 円

債権運用の経過

日付	経過	金額	備考
H25 年 3 月 20 日	第 248 回 10 年国債償還	100,000,000 円	
H25 年 3 月 29 日	第 328 回 10 年国債取得	100,000,000 円	利率 0.6%
H27 年 3 月 20 日	第 88 回 5 年国債償還	90,000,000 円	
R 5 年 3 月 20 日	第 328 回 10 年国債償還	100,000,000 円	

これからの取組み

- 事業団債券運用基準に基づき、安全かつ効率的な基本財産の運用を図り、購入条件を十分に聴取してより有利な債券の取得に取り組み、運用益を確保します。

指標 基本財産運用収益

平成 28 年度実績 543,300 円

令和 4 年度実績 543,300 円

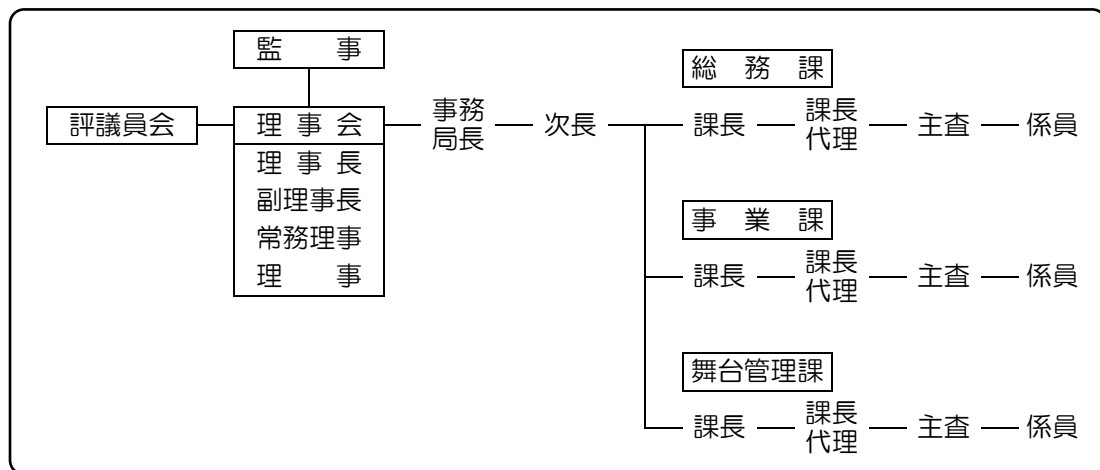
令和 8 年度目標 3,000,000 円

V 計画の推進

安定的、効率的な運営組織と効果的な進行管理によりこの計画を推進します。

1 運営組織

この計画の推進のため安定的、効率的な運営組織を保持します。



2 計画の進行管理

定期的に経営状況をチェックし、効果的な経営改善に取り組むなど、着実な進行管理を行います。

(1) 月間の進行管理

月計表（収支計算書）及び決算書類等により月間の進行状況を管理します。

(2) 年間の進行管理

事業報告書及び決算書類等により年間の進行状況を管理します。

(3) 内部監査

公認会計士及び監事による内部監査を定期的の実施し、適正に進行状況を管理して適切に計画を推進します。

3 計画の成果

計画を推進し、目標を達成して安定的、継続的な事業活動のための経営基盤を確立します。

令和8年度目標額

次期繰越収支差額	13,000,000 円
正味財産期末残高	180,000,000 円



公益財団法人吹田市文化振興事業団 経営改善計画（令和6年度～令和8年度）

令和6年3月

公益財団法人吹田市文化振興事業団
